One life, Many answers

札幌学院大学
SAPPORO GAKUIN UNIVERSITY

総合研究所年報

2020年度

あいさつ

札幌学院大学 総合研究所長 大 國 充 彦

札幌学院大学総合研究所は，本学の学術研究活動に対する奨励・助成及び支援を行い，研究活動の活性化と，地域社会の学術研究発展に寄与する活動を行うことを目的として2008年に設置されました．また，北海道の文系総合大学として教育使命を果たすための教員が所属し，教員の様々な研究環境を整え，多様な形態の研究を支援する組織でもあります．研究促進奨励金，研究活動活性化事業，学会発表旅費助成，在外・国内研究員制度，各種運用の支援，外部資金獲得等の情報提供を常に行い，所員の研究活性化の下支えをし，様々な研究成果が教育の場に生かされていくよう，一層の研究活動支援を行っております．

本年報は，本学全教員が2020（令和2）年度に取り組んだ研究活動，外部資金獲得状況などの，あらゆる研究活動に関する概要を報告するものです．研究所員は5つの常設研究部会（経営，経済，人文，法政，心理）と，4つの横断的研究部会（情報科学，SORD，言語学談話会，地域連携部会）のいずれかに所属しております．この多様性を強みとして学際的な研究活動を展開しております．また，各教員は各自の研究テーマの下で継続的な研究を行っていて，得られた研究成果は所属する学内外の学会で公表しております．各研究活動につきましては，本編をご覧いただき，その多様な研究分野とその成果をご確認いただければと存じます．

今後も総合文系大学の教育に資する研究の基礎を支える組織として，いっそうの環境整備を行って参りますので，いっそうのご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます．

2020年度 札幌学院大学総合研究所年報

目次
Contents

組織図・事業概要

札幌学院大学総合研究所組織図 4

札幌学院大学総合研究所事業概要 5

研究活動

研究部会活動報告 7

研究促進奨励金 採択一覧・審査員 10

研究員の研究促進奨励金による研究概要 11

科学研究費補助金間接経費研究活動活性化事業 17

成果公開

研究紀要 19

著書買い上げ補助対象図書一覧 21

所員の動向

新任・退職・在外・国内研究員 25

在外・国内研究員 研究成果報告 26

外部資金等概要

科学研究費助成事業 28

（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金・
分担金）一覧

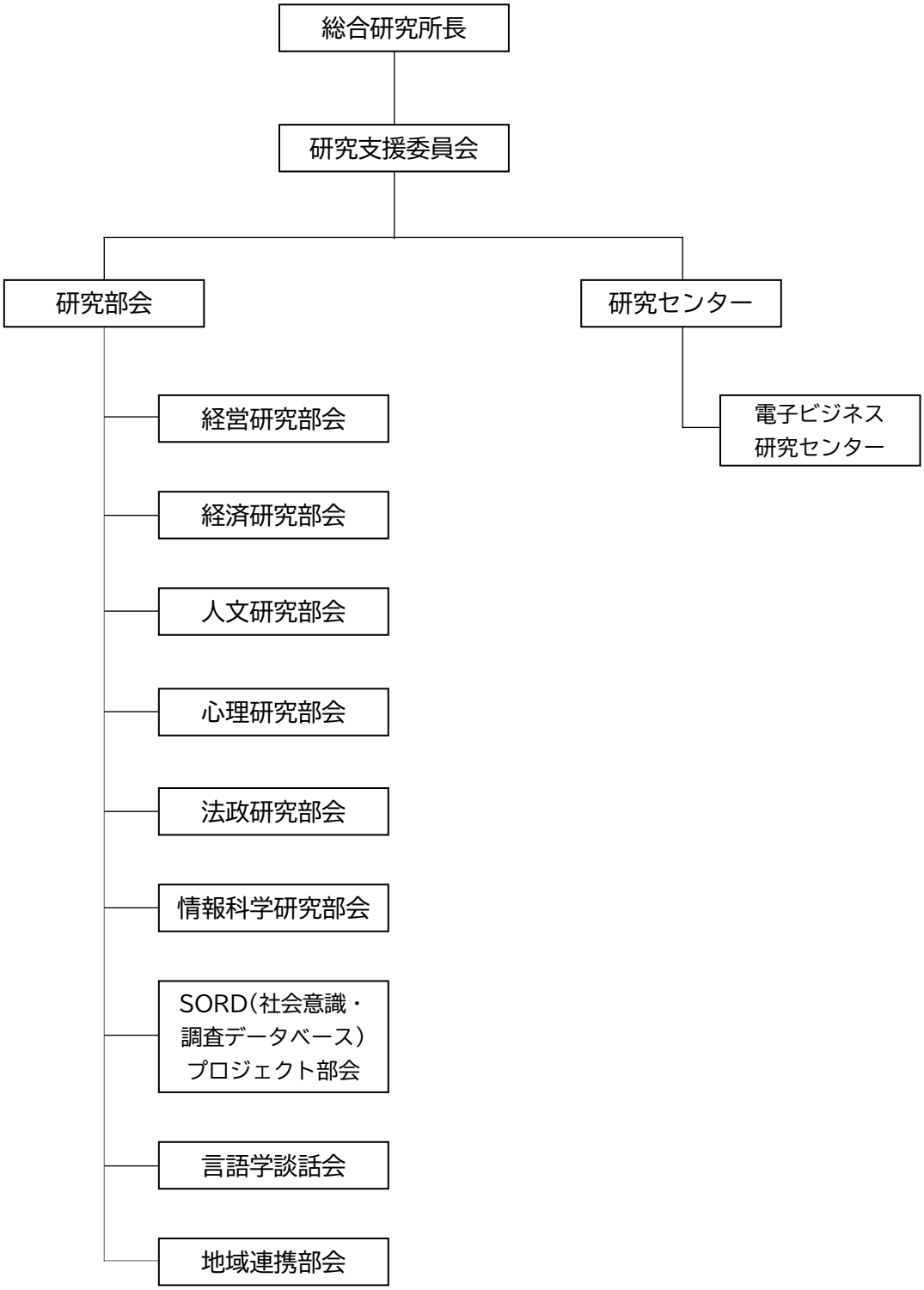
受託研究・その他の外部資金 30

運　営

研究支援委員会議題一覧 32

組織図・事業概要

札幌学院大学総合研究所組織図



札幌学院大学総合研究所事業概要

1. 研究及び調査の実施
2. 研究及び調査の成果の発表
3. 研究及び調査資料等の収集，保管及び貸出
4. 研究及び調査の奨励，助成
5. 研究会及び講演会等の開催
6. 学会活動等の支援
7. 在外及び国内研究の運営
8. 研究業績の集約と公開
9. その他本研究所の目的を達成するために必要もしくは有益な事業

研 究 活 動

研究部会活動報告

常設研究部会

経済研究部会研究会

8月6日（木）

BBBを使ったオンライン会議方式

タイトル　「遠隔授業の現状と課題」

報 告 者

1. 大國 充彦（経済学部教授）
   「大学の「授業」のこれから: 大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム（国立情報学研究所主催）の諸報告より」
2. 平澤 亨輔（経済学部教授）
   「遠隔授業の取り組み―ナレーションと小テストを用いた遠隔講義」
3. 森　邦恵（経済学部教授）
   「遠隔授業の取り組み」
4. 全体討論

特設研究部会

情報科学研究部会

代表者　中村　永友

構成員　石川　千温，井上　　仁，大國　充彦
奥田　統己，小内　純子，北田　雅子
小池　英勝，小出　良幸，諸　　洪一
白石　英才，高田　　洋，中村　永友
早田　和弥，平澤　亨輔，皆川　雅章
三好　　元，森田　　彦，山田　智哉
湯本　　誠，渡邊　愼哉

本研究部会は，文系総合大学における情報学，情報科学，統計科学等の複合領域・総合領域の学問分野に対する研究成果を公表する場として存在している．

研究紀要「情報科学」を発刊することが主たる研究活動で，2012年度までは当該紀要を33巻にわたって発刊し続けてきた．

2013年度に総合研究所紀要が発刊されたことに伴い，その１セクションとして「情報科学」が設けられた．研究部会員の関連論文はここに掲載している．必要に応じて研究会など開催してきたが，2020年度は開催しなかった．

SORD研究部会

代表者　大國　充彦

構成員　大國　充彦，小内　純子，高田　　洋，
小池　英勝

2020年度，SORD研究部会では継続的活動と新規活動を行った．

1. R2－R4　SGU科研費研究の開始
2. R1－R5　中大科研費研究による資料整理
3. 過年度科研費で収集した資料の整理
4. 社会調査データの二次利用のための提供活動（2018年度以降休止）
5. SORDの課題に関する検討活動

具体的には次の通りである．

1. R2-R4 SGU科研費研究の開始

日本の労働運動が，実現はしなかったが内包していた可能性を発掘するために，炭鉱労働組合幹部の日記などをもとにした生活記録を作成し，そこに描かれている考え方や倫理を発掘するための研究を行うという計画を立て，2020年度から科研費が採択された.

・科研費採択：共同研究者は4人.
・資料はSORDに保管.
・資料の整理を行う.
  1) 手書きの日記をテキスト化，PDF化
  2) 共同研究者で共有し，読解を進める.
  3) 日記を補完する資料の整理，テキスト化ないしPDF化.

2. R1-R5中大科研費研究による資料整理：夕張資料整理

1) 夕張炭鉱労働組合幹部の経歴がある笠嶋一氏より資料の寄贈を受けている（夕張資料）. この資料を次の2点から整理を始めた.
  ・ 笠嶋一氏の生活史に関する資料.
  ・ 笠嶋氏が意図していた南助松の自伝執筆用資料.

3. 過年度科研費で収集した資料の整理

1) H18 - H21科研費研究で収集・整理した資料の公開に向けての検討活動
  ・ プライバシー・ポリシーについての骨格がまとまったので，成文化に向けて検討を開始する.
2) H21 - H25科研費研究でサルベージした資料の取り扱いについての検討活動
  ・ サルベージした資料のリストを完成させ（主として中大科研），そのチェックを行った.

4. SORDの課題に関する検討活動

データアーカイブス運営上の諸課題とデータアーカイブスの学術的諸課題とを整理した. これらの課題は，今度とも継続課題として検討していく.

・データアーカイブス運営上の諸課題
  1) データ寄託者との関係を明確化する
  2) データの利活用に関する課題
・データアーカイブスの学術的諸課題
  1) 資料・データについての研究
  2) 資料・データを用いた研究

5. 社会調査データの二次利用のための提供活動

2018年度以降，この活動は休止し，東京大学社会科学研究所付属社会調査データアーカイブ研究センターなどの同様の組織に提供活動は委ねた.

言語学談話会

代表者　奥田　統己
構成員　奥田　統己，岸本　宜久，児島　恭子
　　眞田　敬介，白石　英才，中村　永友

札幌学院大学言語学談話会（2014年度より総合研究所特設部会）は，今年度中に計6回の例会をすべてオンラインで，学内外の研究者・学生の参加を得て開催した．各回の発表者とタイトルは以下のとおりである.

第103回 札幌学院大学言語学談話会
2020年6月25日（木）
和田 晴棋（北海道大学大学院）
「現代ギリシア語動詞におけるアスペクトの形態的対立」

第104回 札幌学院大学言語学談話会
2020年7月30日（木）
岡田 一祐（北海学園大学人文学部）
「濁音仮名活字の意味：明治の仮名字体意識とそのゆらぎ」

第105回 札幌学院大学言語学談話会
2020年9月24日（木）
山越 康裕（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）
「シロンゴル・モンゴル語の条件副動詞の『言いさし』」

第106回 札幌学院大学言語学談話会
2020年12月15日（火）
Bordin Chinda (Chiang Mai University, visiting

professor at Sapporo Gakuin University)
“Performance-based Language Assessment: What is it? Does it work?”

第107回 札幌学院大学言語学談話会

2021年1月21日（木）
Junior Koch (Faculty of Humanities, Sapporo Gakuin University)
“Making a questionnaire to understand students’ difficulties in English as a foreign language”

第108回 札幌学院大学言語学談話会

2021年3月25日（木）
奥田統己（札幌学院大学人文学部）
「AIによるアイヌ語の自動処理―できたこと，やりたいこと，やるべきでないこと」

地域連携部会

代表者 新田　雅子
構成員 浅川　雅己，井上　大樹，石井　和平
碓井　和弘，大國　充彦，小内　純子
片山　一義，白石　英才，高橋　麻美
中村　永友，中村　裕子，平澤　亨輔
藤野　友紀，皆川　雅章，三好　　元
村澤和多里，山本　　純，湯川　郁子
吉川　哲生，新田　雅子

地域連携特設部会は，地域におけるさまざまな教育・研究を実践するあるいはそれを志す本学教職員の連携を強化し，地域連携・地域貢献活動を活性化することをねらいとして，2016年度より設置した.

活動内容としては地域連携にかかわる研究会を開催することを基本とし，2019年度まで毎年3～5回程度実施してきたが，2020年度は新型コロナウイルス感染拡大にともなう教職員のイレギュラーな業務や対応が重なったことから，当部会は年間通して事実上の休会状態とならざるを得なかった.

2021年度については，社会情勢を勘案しつつオンラインでの研究会開催を検討し，部会としての活動継続を図りたい.

研究促進奨励金　採択一覧・審査員

研究促進奨励金　採択一覧

区分		研究者氏名	研　究　課　題	交付金額(円)
A	個人研究	大塚　宜明	黒耀石の利用を観点とした擦文・オホーツク文化における人類社会の変容過程の解明	200,000
		新田　雅子	高齢者を対象とするソーシャルワークにおける〈継承〉あるいは「女性史的実践」に関する調査研究	200,000
		久藏　孝幸	北海道家庭学校第五代校長の語彙使用の経年変化とその福祉実践思想の変遷についての分析	200,000
		森　　直久	自由記述によるプレ－ポスト比較法：アクティブラーニング型授業の新しい効果測定法の開発	183,000
		小内　純子	平成合併に伴う住民組織再編とボトムアップ型組織づくりの課題―宮城県大崎市を対象に	200,000
B	共同	◎中村　永友／土屋　高宏	離散・連続型確率分布の統合理論による超高速乱数生成のための基礎研究	494,000
		◎臼杵　　勲／正司　哲郎	水中遺跡調査法の開発	494,000
	個人	小出　良幸	沈み込み帯における構造浸食作用と付加作用の擾乱様式の比較検討に関する研究	494,000
C	共同	◎大國　充彦／玉野　和志 西城戸　誠／新藤　慶	戦後復興期労働運動の再評価：夕張炭鉱労組書記長日記（1947-62）翻刻と分析	463,500
		◎伊藤万利子／三嶋　博之	周囲の環境の視覚的な変化がけん玉操作時の姿勢の安定性と巧みさに与える影響	908,000
重点	共同	◎山崎　慎吾／黒阪　健吾	コストに相関がある下での公共財の自発的供給の理論・実験分析	800,000

◎研究代表者

研究促進奨励金　審査員

〔総合研究所長〕　大國　充彦（経済学部）

〔研究支援委員〕　岸本　宜久（経営学部）　浅川　雅己（経済学部）　臼杵　　勲（人文学部）
井手　正吾（心理学部）　田處　博之（法学部）

〔各研究部会からの選出〕　橋長真紀子（経営学部）　井上　　仁（経済学部）　大澤　真平（人文学部）
斉藤　美香（心理学部）　小内　純子（法学部）

〔総合研究所長が指名した者〕森田　　彦（経済学部）

研究員の研究促進奨励金による研究概要

◆研究者

大塚　宜明

◆研究課題名

黒耀石の利用を観点とした擦文・オホーツク文化における人類社会の変容過程の解明

◆研究課題番号

SGU-AS2020-01

◆研究成果の概要

本研究の目的は，擦文文化・オホーツク文化を対象に，主要な石器原料である黒耀石の石材消費のあり方と石材原産地の関係を検討し，さらにその成果を通時的に比較検討することで，両文化における黒耀石の利用形態の様相および，両文化期に生じた黒耀石の利用形態の変容過程の歴史的意義を明らかにすることである．

石材消費の分析は，擦文文化の資料として大島2遺跡(東京大学・北見市所蔵)，オホーツク文化の資料としてウトロ遺跡やチャシコツ岬下B遺跡(斜里町教育委員会所蔵)，続縄文期およびアイヌ文化期の資料として南川2遺跡(せたな町教育委員会)を対象に実施した．黒耀石原産地推定分析については，南川2遺跡の続縄文期・アイヌ文化期の資料を対象に池谷信之氏(明治大学教授)に委託し実施した．

研究の成果として，①続縄文文化における道南の黒耀石利用のあり方の解明，②擦文文化からアイヌ文化期における黒耀石祭祀の成立過程の解明，③アイヌ文化期における黒耀石利用の終焉過程の解明，があげられる．また，斜里町の黒耀石利用の通時的な検討からは，オホーツク文化期に黒耀石の調達方法が大きく変化することが把握できたことも，今後の研究につながる成果といえる．

◆研究者

新田　雅子

◆研究課題名

高齢者を対象とするソーシャルワークにおける〈継承〉あるいは「女性史的実践」に関する調査研究

◆研究課題番号

SGU-AS2020-02

◆研究成果の概要

本奨励金によって行いたかったことは，これまでの研究成果のまとめのための調査2件と，文献収集である．調査の１つめは道東の農村過疎集落で独居生活をしている80歳代後半の女性2人に対するライフヒストリー研究のフォローアップ調査であり，2つめの調査は十勝清水町の農村部にある廃校舎を利用した小規模多機能型介護施設のフィールドワークであった．しかしこれらはいずれも，新型コロナウイルス感染症の拡大により自粛せざるを得なかった．そのため，旅費のすべてと，予定していたインタビューデータのトランスクリプト作業の業務委託費が執行できなかった．

結果として本奨励金の使途としては，1件目の調査対象者に過去にインフォーマルなかたちで訪問した際のやり取りを録音したデータがそのままになっていたため，今回の奨励金を活用して文字化作業を実施しデータの整理を行ったことと，オーラルヒストリーに関する内外の文献購入費のみである．

また調査が実施できなかっただけでなく，2020年2月の申請時には予定していなかった公務を担うことになり，年間を通して非常事態への対応に追われたため，単著（学位論文）の刊行を目標として計画していた2020年度における研究の進展に時間とエネルギーを割くことが出来なかった．これは個人としてのタイムマネジメントの問題であり，自己の責任に帰することではあるが，そうした事情も重なり研究成果を報告することが出来ないことを報告せざるを得ないというのが実態である．そしてまた，当初の研究計画どおりの調査が実施できるのがいつになるかは今も不明である．

◆研究者

久藏　孝幸

◆研究課題名

北海道家庭学校第五代校長の語彙使用の経年変化とその福祉実践思想の変遷についての分析

◆研究課題番号

SGU-AS2020-03

◆研究成果の概要

一人の児童福祉実践家･思想家の分析により，支援者成熟の理論の仮説生成を目的とし，児童自立支援施設北海道家庭学校第五代校長谷昌恒氏の遺稿を分析した．久藏（2018, 2019）において，大きな出来事が与える影響や，語彙の経年変化を抽出した．今回は引き続き，氏の福祉思想の変遷について，氏の部下であった方の聞き取りを加える予定であったが，コロナ禍により断念し，研究の一部修正をした．

具体的には氏の思想を記述する語彙が，中核的なものと，対象特異的なものとに分けられると仮定をした上で，分析及び経年変化を検討することで谷思想の変化の検討を追加した．方法は，氏の遺稿であるひとむれ1～3巻から，在籍児童向けの講話と，それ以外の職員や対外的なもの対などにわけ，これら資料を1年ずつ差分のある3年分の資料に再度整理をし，計量テキスト分析ソフトHK-coderにて共起ネットワークを用いた解析をした．

結果は中核的な語彙として「思う」「考える」「心」「深い」「知る」「人」「言う」などがあった．また，児童には「諸君」「今日」「分る」「話」「書く」「力」などが多く見られた．経年的には「家庭学校」「生徒」「仕事」「イエス」という言葉は谷の着任5年ほどで活用されなくなっていた．代わりに「学校」「力」「出来る」「強い」「長い」等の言葉がその後用いられはじめた．職員や対外的な文章には「少年」「多く」「多い」「本校」「持つ」「道」などが一貫して用いられていた．同様に「自ら」「教師」など短期間で使われなくなった．各語彙は谷氏流の使用のあり方があり，それを併せて検討すると，単に意味を伝えることではなくエピソディックに具体的な表現を活用することが想定された．同時によく考えることの推奨も認められた．ことに児童には正確な意味理解よりも具体的に体感で理解出来る表現法に在職5年ほどで調整していると考えられた．知性と具体を指導の中で両立する工夫の過程がうかがわれた．

◆研究者

森　直久

◆研究課題名

自由記述によるプレ－ポスト比較法：アクティブラーニング型授業の新しい効果測定法の開発

◆研究課題番号

SGU-AS2020-04

◆研究成果の概要

学力三要素を同時に涵養することが期待されているアクティブラーニング(AL)の一つ『学び合い』を実施し，その効果を測定するために新たな方法を模索した．ことに学力三要素のうちの「主体性・多様性・協調性」を測定することは難しい．その内実は多岐に渡るため，事前に実践者が想定した尺度を用いるだけでは，実践者が意図しなかった部分の成長や変化を捉えることができない．そこでAL実施前後で学習に関する自由記述を行ない，両者を比較することで意図されなかった変化を抽出できると期待された．協力が得られた札幌市内の高校で，4週に渡ってALによる心理学実験実習が行なわれた．自由記述は，ALに参加する直前に，学習に際して設定した自己の目標，学習への姿勢，その他思うことについて行なわれた．匿名性を担保するため，各々の回答を封筒に入れ，封筒に氏名を記載した上で封印した．これをALが終了した4週目に各学習者に返却した．そしてAL開始前に記した自身の回答に対して，現時点からのコメントを記してもらった．またこの時新たに思うことがあれば書いてもよいことが教示された．AL参加前後の回答が識別できるように，参加前は黒鉛筆にて，参加後は消すことのできる赤色水性ボールペンで記してもらった．参加前後の回答を質問項目ごとに文節に分け，KH coderによる分析と多変量解析(対応分析)による解析を行なった．参加前後の変化を「学習者全体として」捉えることは可能であったが，本来測定が望まれ

る学習者個々の変化を捉えることは回答量の制約により難しかった．また学習者個人と全体という二つの単位相互の連関をマルチレベルで分析することも，同様の理由で難しかった．

◆研究者

小内　純子

◆研究課題名

平成合併に伴う住民組織再編とボトムアップ型組織づくりの課題―宮城県大崎市を対象に

◆研究課題番号

SGU-AS2020-05

◆研究成果の概要

本研究は，平成大合併を契機に誕生した自治体の多くで導入された「地域自治組織」に注目し，合併後のローカル・ガバナンスの現状と課題を明らかにすることが課題である．対象は，2006年に１市６町が合併して誕生した宮城県大崎市である．大崎市では合併を契機に「地域自治組織」を設立し，“大崎市流”という名のもとで分権型のまちづくりを模索し続けている．本研究では，約15年に及ぶ行政と住民の試行錯誤の過程を分析するとともに，現在直面する課題を明らかにし，その課題を乗り越えようとする取り組みに注目することで，分権型まちづくり構築の可能性について検討することを目指した．

この研究は，2019年までに，①合併に至る過程，②合併後の「地域自治組織」の構築とその特徴，③まちづくり協議会の活動実績，④地域づくり委員会の活動実績について，実態調査を行ってきた．当初，今回の研究奨励金で，③と④に関する補足調査を実施し，住民参加の実態をさらに詰める予定であった．しかし，新型コロナウイルス感染症の拡大によって調査が不可能になったため，2020年度は，前半の行政の取り組みを中心にまとめる作業を優先することに方針を転換した．そのために関連図書を購入し理論的な研究にも力を入れた．

検討の柱は，①問題意識と先行研究の検討，②大崎市おける合併の経緯と最終報告書の分析，③大崎市流・地域自治組織の仕組みづくりの考察，④持続可能な体制づくりの模索の検討，⑤課題克服に向けたモデル事業・実証事業の成果の把握，である．以上の分析から，(1)合併後，15年余りの間，揺らぐことなく分権型自治を目指すことで構築されてきた仕組みの特徴と，(2)直面する課題をどのような方向で乗り越えようとしているのか，という点が明らかになりつつある．こうした研究成果を，『札幌学院法学』第38巻第1号（2021年）に投稿する予定である．

◆研究者

中村　永友，土屋　高宏

◆研究課題名

離散・連続型確率分布の統合理論による超高速乱数生成のための基礎研究

◆研究課題番号

SGU-BG2020-01

◆研究成果の概要

離散と連続を結びつける理論研究の1課題として，実際に乱数を高速生成するための理論と実装の問題がある．この文脈でこの1年かけて新たな乱数生成方法をいくつか試行する中で，以下の方法を考案した．その概要は以下の通りである．

数値実験やシミュレーション研究等において乱数を得るための方法として，物理乱数と漸化式タイプの乱数生成法（乗算合同法，メルセンヌ=ツイスター法など）が主流であるが，第3の新たな方法を提案した．これまで数多く提案されてきた疑似乱数の生成手法は，確率的あるいは統計的な理論や考え方の下で生成されていないという意味で，第3の方法である．疑似一様乱数は「疑似」と冠しているとおり，ある種を基とする決定論的な方法（漸化式）で得られるものであり，結果的に得られる数列が乱数列であることが適合度検定などで保証されているのである．物理乱数はランダム（確率的変動をする）とされる物理現象から得られ，これも結果として乱数列と見なしているのである．この第3の方法は，ある確率分布にしたがう乱数を1組用意し（数百～数千個程度：

Seeds），ここからすべての要素を非復元抽出することで新たな1組(同時にn個)の一様乱数が得られる．このような発想による乱数生成法はこれまでにない新たな方法で，一様乱数の高速生成が可能なことも特徴である．これらからも，本研究課題のすべてではないが大きなテーマの中で一部分が達成された．

◆研究者

臼杵　勲

◆研究課題名

水中遺跡調査法の開発

◆研究課題番号

SGU－BG2020－02

◆研究成果の概要

2020年度の研究についてはコロナウィルスによる緊急事態宣言等の影響から，出張が制限されたことから，打ち合わせ・実地での実験については十分な対応が行えなかった．そのため特に水中実験・試行を次年度も継続し，次年度以降の紀要に成果を公表する予定である．

しかし，位置測定のためのRTK技術については，大学構内でUblox社F9Pチップを用いたシステムの構築と検証実験を行い，良好な成果を得ることができた．当初はラズベリーパイ小型PCによるシステムを試行したが，経費・簡便性の点ではむしろUMPCの利用が優れていることが確認できた．精度については，既知点，後処理計測結果との比較を行い，1cm以内の誤差で十分な実用性が確保でき，経費の面では２台セットで20万円程度で運用が可能とできた．ただし，水上での利用については，耐水性の確保と水中位置の設定に課題がある．また，他機器への組み込みについては，共同研究者と大学構内において陸上での実験を行い，移動しながらの計測・記録にRTKシステムが有効であることが確認できた．水中・水上での計測装置の開発により応用が可能となる．この部分については，下記に成果を公表済みである．

水中での実験については，水中ドローンによる数回の撮影・計測の試行にとどまり，十分な検証にはいたらなかったが，海流・波浪・などの影響や水中の視野への対応など課題は明確化できた．撮影画像からの3Dデータ作成は，地上同様に充分可能であることも確認した．ただし，撮影方法については，水中位置の確認と横移動が困難であることから，写真測量に必要なステレオ撮影が著しく困難であり，方法の確立が必要であることを確認した．

◆研究者

小出　良幸

◆研究課題名

沈み込み帯における構造浸食作用と付加作用の擾乱様式の比較検討に関する研究

◆研究課題番号

SGU－BS2020－03

◆研究成果の概要

本研究は，使途を野外調査を主として申請していた．しかし，新型コロナウイルスの感染による緊急事態と大学の行動指針の決定によって，出張を伴う野外調査はできなくなった．そのため，野外調査に基づいた研究は中止して，沈み込み帯が重要な役割を果たす「島弧造山運動」と，そこから広い「テクトニクス」という概念について整理し考察していくことに変更した．

島弧造山運動とは，沈み込み帯における構造浸食作用や付加作用に関するいくつも仮説，また島弧の火成作用や変成作用に関する複数の仮説からなり，多数の仮説が複雑に絡み合った論理構成になっている．それらは「島弧造山運動」という大きな仮説群にまとめられている．また直接関係していない仮説間の関係は必ずしも明らかになっていない．また，時間軸における関係も必ずしも整理されていない．

島弧以外でも，大陸プレート同士の衝突帯，海洋プレート同士の未成熟島弧など異なった地質場でも造山運動が起こっており，それぞれの造山運動は異なった仮説群になっている．だが，その仮設群には共通する普遍性もある．そのような普遍性を抽象した造山運動と，時間変遷を加えた地球

の運動像を「テクトニクス」とされている．

当然，「テクトニクス」も複雑な論理構成になっている．テクトニクスを理解するために，数学的概念を導入するという方法論を提案した（小出, 2020）．また，そこから全地球のテクトニクスを整理し，それをさらに普遍化していくための方法論を提案した（小出, 2021）．

◆研究者名

大國充彦，玉野和志，西城戸誠，新藤慶

◆研究課題名

戦後復興期労働運動の再評価：夕張炭鉱労組書記長日記（1947-62）翻刻と分析

◆研究課題番号

SGU－CG2020－01

◆研究成果の概要

申請書に記載したように，北炭夕張炭鉱労働組合の書記長まで務めた笠嶋一氏の手記を整理し，それを基に笠嶋氏の生活史記録を作成する作業に取りかかっている．

笠嶋氏の手書きの日記は，出身地である秋田から夕張に移動する1947年から1962年までの記載がある．そのうち，1954年以降の記述が激減しているのは，この年，笠嶋氏が労働組合執行部に就任したからだと推測できる．私どもは，日記の記述が充実している1947年から1954年までを主たる対象として，青年・笠嶋一氏の成長のストーリーを追う形で，日記の解読を始めた．

日記をコピーしPDFファイルにすることで，研究チームの各人が手元で日記を確認できるように資料を整えた．その上で，時に判読の難しい手書き文字をWordファイルに起こして共有している．1年ごとに担当を決めて，毎日の出来事を丁寧に読み解く作業を開始している．

作業の中で，未だに仮説的ではあるけれども，1950年前後の日本の労働運動について，現場の青年・笠嶋一氏の率直な感想が読みとれ，それは従来いわれている共産党・社会党の捉え方と一致している側面もあるが，それに限らない局面もあり，リアルタイムの運動のあり方の多様性を示唆してくれている．

現時点での課題としては，炭鉱労働の具体的な用語の意味などは不明なものも多いので，確認する作業を予定したいと思う．また，笠嶋氏の親戚関係者や炭鉱関係者などの人物相関図を追跡する必要も見えてきている．

近い将来，日記への解説と解題を付した資料を出版する方向で，研究成果を出すことを検討している．

◆研究者

伊藤　万利子，三嶋　博之

◆研究課題名

周囲の環境の視覚的な変化がけん玉操作時の姿勢の安定性と巧みさに与える影響

◆研究課題番号

SGU－CG2020－01

◆研究成果の概要

研究代表者と共同研究者は，これまでに，けん玉の動作や視線を分析することにより，けん玉を安定して見ることができるようにする身体運動（視覚を助ける身体運動）がけん玉熟練者の巧みさを支えているということを示してきた．今回の研究は，けん玉熟練者がけん玉をするときの視覚的環境（床や壁などの見え方）が熟練者の巧みな技に与える影響を検討するものである．

研究については，以前から，実験タスクとする「もしかめ」のデータ取得をして「もしかめ」という技の特徴を把握したり，実験場所の確保をしたり，実験刺激の作成をしたり，使用機材を購入する業者とコンタクトをとるなどして進めてきた．しかし，新型コロナウイルス感染症の拡大により，実験場所である早稲田大学所沢キャンパス（埼玉県所沢市）で実験を実施することや研究代表者の移動が困難になってしまった．特殊なスキルをもつ実験参加者（けん玉熟練者）に参加を依頼すること（札幌では依頼できる方が見つかっていない）や実験での使用機材（床や前方の壁の見え方をコントロールできる機材が所沢キャンパスでは使用可だが，本学では利用できない）という点から，本学での実験の実施も難しかった．授業

の遠隔化に伴い，授業コンテンツの作成や学生対応などの業務が増加した．複数の理由から，2020年度に研究を進めることが極めて困難であった．研究を進めることが難しい状況下であったことから，研究促進奨励金の使用も断念した．

◆研究者名

山崎　慎吾，黒阪　健吾

◆研究課題名

コストに相関がある下での公共財の自発的供給の理論・実験分析

◆研究課題番号

SGU－JG2020－01

◆研究成果の概要

今年度は感染症の影響で実験及び出張が出来なかったが，理論的な研究や実験の準備という面での研究を進展させることは出来た．理論研究では，コストに相関がある元での公共財の自発的供給について，最近のゲーム理論の発展の一つであるグルーバルゲームという方法を用いて，理論的な予測を行った．コストに相関がある状況というのは比較的一般的に世の中に見られる．例えば，町内会の掃除などである．同じ地域に住んでいるので生活水準はある程度似ているはずなので，掃除の機会費用もある程度似ているはずである．自分の機会費用（コスト）が大きいとき，他の町内会構成員のコストも大きいだろうとそれぞれ考えるはずだ．これをコストに相関がある状況と呼んでいる．コストに相関がある状況では，従来の研究が前提にしてきた均衡が存在しないケースがあることを発見した．従来の研究における均衡は単純にコストがある一定値より低いと貢献し，高いと貢献しないという均衡である．これが均衡にならないケースにおいて，パラメーターや設定を少し変化させることでどういった均衡が実際に生じるかをこれから実験を通して分析していく．また，不完備情報ゲームを扱うため，理論研究では実際のコストは正規分布に従い決定されると仮定していたが，この点が実験や実験結果の分析を行う上で障害となる可能性がある．この分布についても一様分布を仮定したモデルと結果を導出し，実験への準備を進めた．また，実験で用いるパラメーターの準備も進めており，いくつかのパラメーターの設定を検証した．

研究発表はまだできる段階ではないが学会での口頭発表後，英文査読誌に投稿する予定である．

科学研究費補助金間接経費研究活動活性化事業

◆実施期間

2020 年 7 月 1 日～ 2020 年 10 月 22 日

◆申請者

小出　良幸

◆事業名

『弧状シンギュラリティ 島弧と沈み込み帯の地質学的重要性』の出版

◆実施内容

これまで，島弧固有の地質学的現象に着目して，調査研究を進めてきた．島弧とは，海洋プレートが他のプレートとの境界で沈み込むことで形成されるもので，地球上でもっとも地質学的作用（火成作用，変成作用，堆積作用，造山作用など）が活発な地域である．島弧の地質学的作用は，他地域のものと比較して，固有性や特異性が大きいことを明らかにしてきた．島弧の地球史的，地質学的の特徴を「シンギュラリティ」と捉え，「弧状シンギュラリティ」という新たな視座を導入してきた．島弧と沈み込み帯の特異性を検討し，これまでの成果を「弧状シンギュラリティ 島弧と沈み込み帯の地質学的重要性」としてまとめて出版した．出版した本は，当初計画通り，関連研究者に配布し，考え方を共有し議論をしながら，一定の評価を得られた．

成 果 公 開

研究紀要

総合研究所紀要

第8巻（2021年3月発行）

特集「発達障害のある大学生への修学・就職支援」

・特集「発達障害のある大学生への修学・就職支援」について　松川 敏道・田中 敦士
・東京大学への訪問調査：DO-IT Japan と発達障害者の超短時間雇用［調査報告］　田中敦士・栃真賀透・藤野友紀
・ガクプロへの訪問調査：就活と仲間づくりのコミュニティ［調査報告］　藤野 友紀・栃真賀 透・田中 敦士
・Kaien への訪問調査：全国に拠点をもつ就労移行支援事業所［調査報告］　栃真賀 透・末吉 彩香・田中 敦士・藤野 友紀
・明星大学への訪問調査：社会移行支援プログラムを考える［調査報告］　斉藤 美香・松川 敏道
・関西学院大学への訪問調査：修学・就職支援における外部機関との連携［調査報告］　松川 敏道
・富山大学への訪問調査：卒業後の地域連携と社会参入支援［調査報告］　卜部 洋子・田中 敦士
・本学における支援体制の課題［調査報告］　斉藤 美香・藤野 友紀・山本 彩・卜部 洋子・松川 敏道・田中 敦士・栃真賀 透

情報科学

・疑似的な一様乱数とベータ分布［研究ノート］　中村 永友・土屋 高宏
・組合せ最適化問題の最適解を高速列挙するためのソフトウェアフレームワーク設計［論文］　小池 英勝

教養教育

・大学生の就職活動におけるつまずきの分析Ⅱ
— 学部・パーソナリティ要因からの検討—
［論文］　佐野 友泰

経営論集

No.14（2020年10月発行）

論文

・70歳雇用時代を迎える中小企業の高年齢社員の活用策と課題　河田 真清
・鶴居村における民間主体となった滞在型観光事業　河田 真清

研究ノート

・「株式時価総額/営業利益でみれば，株価は割高」　玉山 和夫

No.15（2021年3月発行）

論文

・北海道の経済，中小企業，信用組合
—北海道の信用組合の今後の方向—　三好 元
・寿都町における地域資源を活用した企業経営による地域産業振興の可能性　河田 真清

研究ノート

・黒田日銀総裁の金融政策と為替レート　玉山 和夫

人文学会紀要

第108号（2020年11月発行）

論文

・ハイデガーの「実在性」と「真理」の概念　奥谷 浩一
・根源的mustのさらなる使用依拠的研究に向けて
—周辺部に生起する評言節I must sayの談話機能分 析—　眞田 敬介
・障害のある労働者の心理的健康度向上に向けた配慮の在り方—ワーク・エンゲイジメントに注目して　小田切 岳士・森 浩平・田中 敦士

・ソーシャルワーカーの養成課程における感情規則の特徴　中村 裕子
・黒耀石からみた北海道およびその周辺地域における人類社会の動態　大塚 宜明
・地質学への数学的概念の導入の試み：テクトニクスを例にして　小出 良幸

第109号(2021年2月発行)

論文

・「杣山」の「民地民木」をめぐる謝花昇の闘い (1)　奥谷 浩一
・後藤道夫氏の「2001 年の大リストラ」論への疑問　湯本 誠
・全地球テクトニクスから普遍的テクトニクスを目指して　小出 良幸

心理学紀要

第3巻第1号(2020年11月発行)

論文

・台風災害の生徒への心のケアで何が必要だったか？～高校教員の声～　菊池 浩光

研究ノート

・教育における海外の福祉施設体験学習の意義と課題―基本的態度やコミュニケーションスキルと社会的視点に関する学習―　中村 裕子・佐野 友泰・大宮 秀淑

資料

・MMPI-2各種尺度の新日本版MMPIへの活用のための基礎資料　井手 正吾

第3巻第2号(2021年3月発行)

論文

・日本における gifted という語の受容の課題　小林 茂

研究ノート

・こころの Dual Process Theory　室橋 春光

札幌学院法学

第37巻第1号(2020年7月発行)

研究ノート

・土地所有権の放棄：再論―所有者であり続けることは，所有者の責務か？ ―　田處 博之

論説

・暗号資産を巡る法制整備と論点考察　荻野 昭一
・「中国化」としての法治―中国の政治司法と「新疆ウイグル自治区過激化除去条例」批判　鈴木 敬夫

第37巻第2号(2020年12月発行)

論説

・企業における規範原則とデューディリジェンス　石井 和平

判例評釈

・有期労働契約を締結していた労働者の地位確認訴訟において，第1審がしんしゃくすべきであった契約期間の満了を原審で指摘することが時機に後れた攻撃防御方法の提出に当たるということはできず，それを理由に上記主張を却下したとしても契約期間の満了をしんしゃくせずに請求の当否を判断できることになるものではないとされた事例―朝日建物管理事件―（最判令和元年11月7日集民 262号 151頁）　横路 俊一

翻訳

・沈 田 (Sheng Tian)：世俗化と法治の概念― 「新疆ウイグル自治区過激化除去条例」第9条をいかに解読するか　鈴木 敬夫

著書買い上げ補助対象図書一覧

（刊行順）

『障害者・障害児心理学』

公認心理師の基礎と実践 第13巻

遠見書房，2020年3月20日刊行

監修／野島一彦・繁枡算男

編者／柘植雅義・石倉健二・野口和人・本田秀夫

執筆者／田中敦士　ほか

（目次）

第7章 知的障害者を取り巻く心理社会的課題（田中）

『会計のヒストリー80』

中央経済社，2020年4月刊行

編者／野口昌良・清水泰洋・中村恒彦・本間正人・北浦貴士

執筆者／檜山純　ほか

（目次）

第3部　監査

60　監査人の職業的懐疑心(監査人の責任)　（檜山）

『医療スタッフのための動機づけ面接２』

糖尿病などの生活習慣病におけるMI実践

医歯薬出版，2020年5月25日刊行

著者／北田雅子・村田千里

（目次）

序章　さぁ，動機づけ面接の世界へ

第1部　動機づけ面接を臨床で使う準備

第1章　MIの全体像：患者さんの頑張りたい気持ちを引き出す

第2章　かかわる：患者さんとの関係性の構築

第3章　フォーカスする:面談の方向性を決める

第4章　行動変容への動機を引き出す：チェンジトークに
チューナーを合わせる

第5章　計画:具体的に計画する

第2部　事例で見る動機づけ面接
動機づけ面接の臨床への適用

第6章　診断時における患者さんの戸惑いや抵抗への対応

第7章　行動変容が難しいライフスタイルへのアプローチ！

第8章　患者さんとの継続的なかかわり

『ジェンダーからソーシャルワークを問う』

ヘウレーカ，2020年5月30日刊行

編著／横山登志子・須藤八千代／大嶋栄子

著者／鶴野隆浩・中澤香織・新田雅子・宮﨑理

（目次）

1 語られていない構造とは何か　―ソーシャルワークと「ジェンダー・センシティブ」（横山）
6 「晩年の自由」に向けてのフェミニストソーシャルワーク―老いゆく人との女性史的実践と〈継承〉（新田）

『基本 企業簿記』

同文舘出版，2020年6月30日刊行

編著／吉見宏

執筆者／檜山純　ほか

（目次）

第8章　手形と電子記録債権・債務（檜山）
第9章　有価証券　（檜山）
第18章　決算整理(4)―費用・収益の期末処理と税効果会計（檜山）
第22章　連結財務諸表（檜山）

『ブラック生徒指導』

～理不尽から当たり前の指導へ

海象社，2020年9月25日刊行

著者／川原茂雄

（目次）

プロローグ『卒業』の風景
第1章　ブラック生徒指導
第2章　生徒指導とは何か
第3章　懲戒と生徒指導
第4章　ブラック体罰―なぜなくならないのか
第5章　なぜ体罰をしてしまうのか
第6章　ブラック校則
第7章　非行とつっぱり
第8章　校内暴力の時代
第9章　管理主義の時代
第10章　死に至る生徒指導―体罰死と指導死
第11章　ゼロトレランス―究極のブラック生徒指導
第12章　ブラック部活動
第13章　ホワイト生徒指導―当たり前の指導へ
エピローグ　ブラック生徒指導とそれを生み出すもの

『知的障害・発達障害における「行為」の心理学』

ソヴィエト心理学の視座と特別支援教育

福村出版，2020年11月15日刊行

編著／國分充・平田正吾

著者／奥住秀之・葉石光一・大井雄平・池田吉史

北島善夫・増田貴人・渋谷郁子・田中敦士

（目次）

第11章　障害児に対する運動支援（田中）

ソーシャルワーカー・心理師必携

『対人援助職のためのアセスメント入門講義』

金剛出版，2021年2月20日刊行

著者／スーザン・ルーカス

監訳者／小林　茂

訳者／池田佳奈・久納明里・佐藤愛子

（目次）

第1章　成人の初回面接をどのように実施するか
　　―どこから始め，何を質問するか

第2章　見ること・聞くこと・感じること
　　―精神状態検査（MSE）

第3章　クライエントの健康についてどのように考えるか
　　―病歴

第4章　家族の初回面接をどのように実施するか

第5章　子どもの初回面接をどのように実施するか

第6章　生育歴をどのように聞き取るか

第7章　カップルの初回面接をどのように実施するか

第8章　クライエントの他害をどのように見極めるか

第9章　クライエントの自傷行為をどのように見極めるか

第10章　薬物使用者をどのように判断するか

第11章　子どものネグレクト・虐待・性虐待をどのように
　　アセスメントするか

第12章　心理検査とは何か，いつ求めればよいか

第13章　アセスメント結果をどのように書くか

第14章　ここからどこへ向かうのか―継続学習

所員の動向

新任・退職・在外・国内研究員

新任

氏　名	職名	所属	採用日
川　渕　正　広	教授	経営学部	2020年4月1日
末　富　　弘	教授	経営学部	2020年4月1日
矢　川　美恵子	教授	経営学部	2020年4月1日
大久保　　薫	教授	人文学部	2020年4月1日
コホ ジュニア J.C.	講師	人文学部	2020年4月1日
榊　　ひとみ	准教授	人文学部	2020年4月1日
定　平　憲　之	講師	人文学部	2020年4月1日
濱　野　　貢	准教授	人文学部	2020年4月1日
ミ ュ ア　B.J.	講師	人文学部	2020年4月1日
歌　代　礼　子	准教授	法学部	2020年10月1日
髙　田　耕　平	准教授	法学部	2020年4月1日

退職

氏　名	職名	所属	退職日
檜　山　　純	准教授	経営学部	2021年3月31日
山　崎　慎　吾	講師	経済学部	2021年3月31日
オルソン　R.C.	講師	人文学部	2021年3月31日
畠　山　なよ子	教授	人文学部	2021年3月31日
望　月　和　代	教授	人文学部	2021年3月31日
渡　邊　憲　介	教授	人文学部	2021年3月31日
横　路　俊　一	教授	法学部	2021年3月31日

長期在外研究員

水　島　梨　紗　（人文学部・准教授）　2019年9月18日～2020年6月23日

研究題目　「英語教育への応用を 視野に入れた日英語ポライトネスの基礎研究およびフィールドワーク」

研究機関　ハワイ大学マノア校

在宅研究員

水　島　梨　紗　（人文学部・准教授）　2020年6月24日～2020年9月16日

研究題目　「英語教育への応用を 視野に入れた日英語ポライトネスの基礎研究およびフィールドワーク」

在外・国内研究員　研究成果報告

長期在外研究員

◆所属・職名・氏名

人文学部・准教授・水島　梨紗

◆研究期間

2019年9月18日～2020年6月23日

◆研究題目

英語教育への応用を視野に入れた日英語ポライトネスの基礎研究およびフィールドワーク

◆研究成果の概要

ハワイに到着した9月下旬から1月中旬にかけては，日英語のポライトネスに関する基礎研究として，主に文献調査に取り組んだ．図書館に所蔵されている豊富な数の専門書やジャーナルの講読を通じて，語用論およびポライトネス理論に関する最新の研究動向を把握することができた．また，英語教育への応用を視野に入れた現地での調査に向け，事前準備も進めた．

1月中旬からは，アジア言語学科にて開講された大学院のゼミナールに出席し，日本語の終助詞に関する諸研究を社会言語学的な視点から検証した．このテーマは日本語のポライトネスとも関わっており，これまで扱うことのなかった概念やトピックについても，ゼミナール内でディスカッションを重ねることで新たな知見を得ることができた．

当初の予定では，5月中旬までゼミナールに参加しながら，所属学科の大学院を拠点に自身の研究のための調査も進める予定だったが，新型コロナウィルスによる感染症の拡大のため，3月頭にハワイ州全体がロックダウンとなり，キャンパスが閉鎖されたことで，研究計画の変更を余儀なくされた．文献調査は電子ブックまたは電子ジャーナルで入手可能なものに絞り，インタビュー調査をオンラインでのアンケート形式に切り替えて実施することにしたが，現地のコロナ禍の状況に改善が見られず，研究面・生活面双方において支障が生じたため，6月上旬に緊急帰国をする運びとなった．

在宅研究員

◆所属・職名・氏名

人文学部・准教授・水島　梨紗

◆研究期間

2020年6月24日～2020年9月16日

◆研究題目

英語教育への応用を視野に入れた日英語ポライトネスの基礎研究およびフィールドワーク

◆研究成果の概要

ハワイからの帰国後，成田での隔離期間を経た後は札幌の自宅にて在宅研究員となり， 研究活動を継続した．ウェブアンケートの準備を終え，ハワイ大学の学部生・院生を対象に調査を進めるとともに，国内外に住む英語の母語話者にも依頼の幅を広げた．その結果，9月時点で40名弱の協力者を得ることができ，データベースの作成に有効な会話資料を得ることができた．留研終了時までに部分的な分析作業を済ませ（調査対象とした6種類の発話行為のうち1種類），学外の研究会にて報告発表を行った．

今後の研究の見通しとしては，得られたデータの分析を進めるとともに，そこから得られた結果を研究論文や学会発表を通じて随時公表していくこと，また調査協力者も引き続き募集し，データの規模をより大きくしていく予定である．

外部資金等概要

科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金・分担金）一覧

科学研究費補助金

研究代表者	研究種目	研究課題	直接経費
臼杵　　勲	基盤研究（A）	ヘルレン川流域を中心とした匈奴国家中枢地の研究	7,020,000
奥田　統己	基盤研究（B）	アイヌ語現地調査資料の整理・分析および研究者アーカイブズの構築	2,340,000
森　　直久	基盤研究（B）	困難を示す生徒・学生のための生態心理学的アプローチによる学習環境デザイン	1,170,000
原田　寛之	奨励研究	キャンパスと市街地の無線LANを相互利用可能とするオンラインサインアップ機構の開発	480,000
			11,010,000

学術研究助成基金助成金

研究代表者	研究種目	研究課題	直接経費
宮崎　友香	基盤研究（C）	治療的アセスメント短縮版の開発と適用に関する実証的研究－複数施設における効果検証	1,300,000
井上　　仁	基盤研究（C）	金融危機時における銀行バランスシートリスクと貸出行動の誤認識問題	910,000
山本　　彩	基盤研究（C）	社会的ひきこもりや暴力等の不適応行動に対する家族支援プログラムの普及と効果検証	1,430,000
伊藤万利子	若手研究	拡張された自己身体を見ること：姿勢の安定性と動作の巧みさへの影響	130,000
石川　千温	基盤研究（C）	クラウドによる機械学習を利用したエンロールメントマネジメントシステムの構築	780,000
山崎　慎吾	基盤研究（C）	航空会社間の競争と地方政府間の競争の関係及び空港管理主体の違いがもたらす効果	1,430,000
大塚　宜明	若手研究	北海道における先史時代の資源利用とその変遷過程の研究：置戸黒耀石原産地を対象に	1,430,000
Joao. C. Koch. Jr.	若手研究	Identifying and addressing students' SpLDs and potential SpLDs in English as a foreign language in Japanese higher education	1,040,000
大宮　秀淑	若手研究	統合失調症と自閉スペクトラム症の認知機能及び認知機能改善療法における異同	650,000
檜山　　純	基盤研究（C）	レトロアクティブ・アプローチに基づく監査の失敗に関する事例研究	780,000
大國　充彦	基盤研究（C）	戦後復興期労働運動の再評価：夕張炭鉱労組書記長日記（1947-62）翻刻と分析	1,430,000
小池　英勝	基盤研究（C）	最適解の高速列挙によるコンテナ流通混雑問題の解決	2,860,000
岸本　宜久	若手研究	アイヌ語鵡川方言のフィールド調査およびデータの公開	780,000
黄　　昕	若手研究	Effects of Female Executives in Top Management Teams on Corporate Behavior and Performance	650,000
			15,600,000

分担金

研究分担者	研究種目	研究課題	直接経費
大國　充彦	中央大学 基盤（A）中澤班	炭鉱・鉱山から照射する東アジア型資本主義研究と日韓台ネットワーク拠点形成	130,000
井上　大樹	奈良教育大学 基盤（B）生田班	子ども・若者支援における専門性の構築―「社会教育的支援」の比較研究を踏まえて―	91,000
臼杵　　勲	愛媛大学 基盤（A）村上班	4カ国アルタイ地域を対象とした初期鉄器時代の鉄器生産に関する実証的研究	195,000
菅原　秀二	静岡大学 基盤（B）岩井班	複合国家イギリスの形成と地域的連鎖―多元的地域世界の解明―	260,000
横山登志子	大阪府立大学 基盤（A）山野班	子どもの課題スクリーニングから支援・効果まで循環するシステム構築	13,000
森　　直久	立教大学 基盤（A）河野班	生態学的現象学による個別事例学の哲学的基礎付けとアーカイブの構築	455,000
小澤　隆司	早稲田大学 基盤（A）浅古班	岡松参太郎を起点とする帝国と植民地における法実務と学知の交錯	195,000
小内　純子	摂南大学 基盤（A）柳村班	農村社会から分離した農業経営の発展可能性－その地域類型的解明－	195,000
小内　純子	岡山大学 基盤（B）藤井班	女性農林漁業者の社会参画をめぐる地域の「壁」に関する経験的研究	975,000
奥田　統己	京都大学　挑戦的研究（萌芽）河原班	アイヌ語アーカイブを対象としたEnd-to-End音声認識の研究	0
奥田　統己	北星学園大学短期大学部 基盤研究（C）コッター班	Improving Awareness and Understanding of Ainu via Online Resources	104,000
北田　雅子	北海道科学大学 基盤（C）松原班	1歳半健診で気になる親子の把握と親支援のための保健師のスキルアップ教材の開発	65,000
榊　ひとみ	北海道大学　挑戦的研究（萌芽）川田班	保育における「子ども理解」形成のローカル・ダイバーシティ	260,000
山本　政俊	北海道教育大学 基盤（C）前田班	新科目『公共』用北海道版副読本作成－主権者教育・現代社会・総合の蓄積から	234,000
村澤和多里	作新学院大学 基盤（C）山尾班	自立支援から協同自立へ　被支援者による支援活動の可能性に関する総合的研究	195,000
村澤和多里	広島大学 基盤（C）佐々木班	「雇用なき成長」下における若者の自立支援のあり方の国際比較研究	156,000
室橋　春光	佐賀大学 基盤（C）日高班	高い知能をもつ人が示す過度激動特性（刺激への感受性の強さ）に関する尺度開発	169,000
小内　純子	大谷大学 基盤（C）西村班	地方社会の解体的危機に抗する＜地域生活文化圏＞の展開と課題	260,000
			3,952,000

その他の外部資金

受託研究

◆研究代表者

経営学部教授　橋長　真紀子

◆助成機関

文部科学省

◆研究種目

令和2年度「『若年者の消費者教育の推進に関する集中強化プラン』における若年者の消費者教育推進のための実証的調査研究」

◆研究期間

2020 年 7 月 1 日～ 2021 年 3 月 12 日

◆研究題目

ICT 活用による消費を通じた社会課題の解決を促す連携・協働プログラム

◆研究助成額

717,429 円

運　　営

研究員支援委員会議題一覧

2020年度　総合研究所長　大國　充彦（経済学部）

研究支援委員　岸本　宜久（経営学部）片山　一義（経済学部）

臼杵　　勲（人文学部）井手　正吾（心理学部）田處　博之（法学部）

第1回 研究支援委員会

日時　2020年4月16日(木)13:30～

場所　総合研究所

Ⅰ.審議事項

1. 札幌学院大学総合研究所研究員の推薦について
2. 2021年度研究促進奨励金（重点研究）の募集，審査員，審査方法について
3. 科学研究費助成事業・間接経費執行計画について
4. 間接経費・研究活動活性化事業の募集について
5. リポジトリ委員の選出について

Ⅱ.報告事項

1. 2019年度研究支援委員会事業報告書について
2. 2020年度研究関係予算内訳書について
3. 2020年度研究促進奨励金の採択結果について
4. 札幌学院大学研究助成年間スケジュールについて
5. 研究機器の再利用者の募集について
6. 著書買い上げ補助について
7. 総合研究所シンポジウムについて
8. 研究倫理教育e-Learning eL CoRE 定期的受講のお願い
9. 2020年度教員研究関係マニュアルの主な変更点について

第2回 研究支援委員会

日時　2020年5月14日(木)13:30～

場所　総合研究所

Ⅰ.審議事項

1. 2020年度事業計画（案）について
2. 紀要の投稿原稿にかかる剽窃チェックについて
3. 紀要の抜き刷りにかかるアンケート調査について

Ⅱ.報告事項

1. 研究機器再利用者(新任教員対象)の決定について
2. 研究機器再利用者の募集(全教員対象)について
3. 2020年度科学研究費助成事業交付決定(内定)について
4. 研究促進奨励金成果未提出者の研究経過報告書提出状況について
5. 在外・国内（在宅）研究員成果未発表者の経過状況について
6. 『札幌学院大学総合研究所年報』2019年度版原稿提出状況について
7. 紀要・論集の発行予定について

第3回 研究支援委員会

日時　2020年6月11日(木)13:30～

場所　総合研究所

Ⅰ.審議事項

1. 科研費間接経費研究活動活性化事業の申請状況及び選考について
2. 2022年度 在外・国内研究員の募集及び選考基準について

Ⅱ.報告事項

1. 札幌学院大学における公的研究費不正防止計画について
2. 研究機器再利用者(全教員対象)の決定について

第4回 研究支援委員会

日時　2020年7月9日(木)13:30～

場所　Teamsによるオンライン会議

Ⅰ.審議事項

1. 2020年度在外研究員研究計画の変更について

Ⅱ. 報告事項

1. 2021年度札幌学院大学選書の募集について
2. 2021年度科研費募集のスケジュールについて（予告）
3. 2021年度予算要求について／2019年度予算執行状況報告
4. 2020年度学会発表旅費助成の募集について

第5回 研究支援委員会

日時 2020年9月10日(木)13:30～

場所 Teamsによるオンライン会議

Ⅰ. 審議事項

1. 紀要の抜き刷りアンケートの結果について

Ⅱ. 報告事項

1. 2021年度科学研究費助成事業の募集について
2. 2021年度科学研究費助成事業学内説明会について
3. 総合研究所紀要の論文の募集について
4. 2021年度札幌学院大学選書応募状況（途中経過）について
5. コピペルナー（コピペ判定支援ソフト）の運用について

第6回 研究支援委員会

日時 2020年10月15日(木)13:30～

場所 Teamsによるオンライン会議

Ⅰ.審議事項

1. 科研費間接経費執行計画について
2. コピペルナー(論文等の剽窃判定ソフト)の導入及び運用(案)について

Ⅱ. 報告事項

1. 2021年度札幌学院大学選書の申請状況について
2. 学会発表旅費助成の申請状況について

第7回 研究支援委員会

日時 2020年11月12日(木)13:30～

場所 Teamsによるオンライン会議

Ⅰ.審議事項

1. 2021年度予算要求について
2. 公的研究費の管理・運営に関する規程の一部改正について
3. 札幌学院大学総合研究所規程の改正について
4. コピペルナー(論文等の剽窃判定ソフト)の導入及び運用(案)について

Ⅱ. 報告事項

1. 2020年度 教員研究費等の執行期限について
2. 2021年度科学研究費助成事業の申請状況について

第8回 研究支援委員会

日時 2021年1月14日(木)13:30～

場所 Teamsによるオンライン会議

Ⅰ. 審議事項

1. 2021(令和3)年度予算要求第1次査定結果及び復活要求について
2. 2021(令和3)年度研究促進奨励金の審査員について
3. 総合研究所年報(2020年度版)の編集について
4. 経済経営学部の設置に伴う，経営研究部会規程，経済研究部会規程，総合研究所規程の一部改正について

Ⅱ. 報告事項

1. 2021(令和3)年度 研究促進奨励金の募集について
2. 2021(令和3)年度 研究促進奨励金の審査方法について
3. 2021（令和3）年度 札幌学院大学選書の審査結果について

第9回 研究支援委員会

日時 2021年2月10日(木)13:30～

場所 Teamsによるオンライン会議

Ⅰ. 審議事項

1. 科研費間接経費執行計画の変更について

Ⅱ. 報告事項

1. 2021（令和3）年度 研究促進奨励金の審査委員について

第10回 研究支援委員会

日時 2021年3月11日(木)13:30～

場所 Teamsによるオンライン会議

Ⅰ. 審議事項

1. 2020年度 事業報告の提出について

Ⅱ. 報告事項

1. 2021(令和3)年度 予算要求最終査定結果について

2. researchmap更新のお願いについて

札幌学院大学 総合研究所 年報 2020

2022年3月10日発行

発行者　札幌学院大学 総合研究所

〒069-8555 北海道江別市文京台11番地

電話 011-386-8111

代表者　大　國　充　彦